

チーム代表者・理事各位

八戸市 U-12 部会 審判部

兼平 幸希

2021 年度（R3 年度）八戸市 U-12 部会審判活動について

1. 帯同審判制度について

- ① 大会運営をスムーズに行う為、及び平等性の為に JBA 公認ライセンスを保持しておられる審判員を各チーム 1 名以上登録してもらう。男女で同じ指導体制をとっているチームに関しまして、男女別の帯同審判の登録をお願いします。

※正し、公式戦未経験のレフリー（E 級）は帯同審判として認めません。

練習会に参加しない E 級審判員も帯同審判として認めません。

- ② 帯同審判を確保できないチームに関しましては、審判協力金を 1 大会あたり ¥5,000 お支払いいただきます。

この審判協力金は、大会時の審判謝礼・審判の昼食代・ドリンク代・U-12 部会主催の審判練習会の運営費・講師謝礼等に使用させていただきます。

支払いは、抽選会にてお願いします。

- ③ 下記の場合は、帯同審判員でエントリーしていても審判謝礼をお支払い致します。

- ・ 1 チーム 2 人以上の帯同審判員がエントリーしてくださる場合
- ・ 当日に自チームのゲームがない場合 ※負けた場合は該当しない
- ・ 自チームと違う会場で審判をおこなう場合
- ・ 1 日に 3 ゲーム以上割当がある場合

- ④ 大会の際に帯同審判員がエントリーしない場合は、大会当日会場責任者に審判協力金として、¥5,000 お支払いいただきます。

※帯同審判なしで登録しているチームとの格差及び不利益を引き起こさない為。

- ⑤ 帯同審判員となる方は、大会ごとの抽選会にて配布される QR コードをスマートフォン等で読み込み、立ち上がった Google フォームからエントリーしてください。

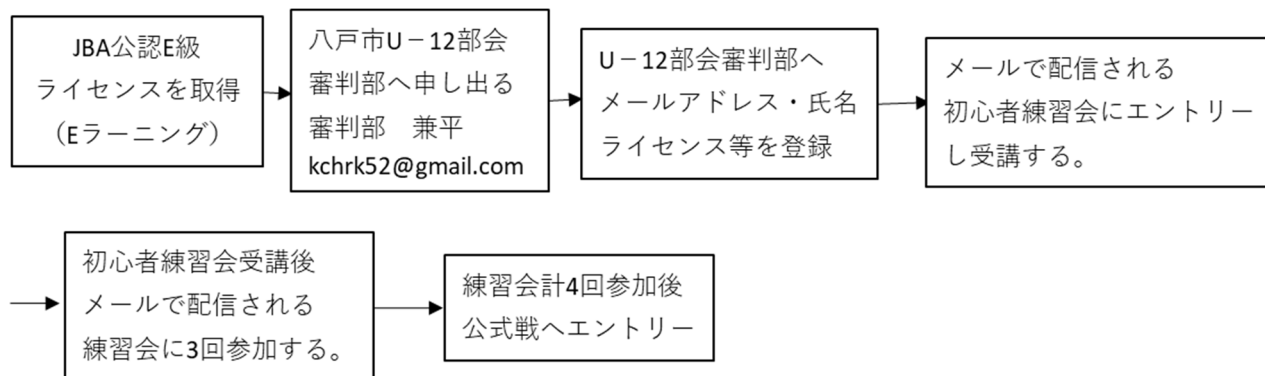
※操作に困る方は兼平までご連絡くださればエントリー手続き致します。

2. ライセンスを取得した方の帯同審判としてエントリーまでの活動について

チームの為に、新規で E 級ライセンスを取得した方、これからされる方はレフリーの経験が不足している場合があります。そうした場合いきなり公式戦のレフリーをすることはかなりのリスクを伴うこととなります。また、割り当てをする側としても力量やルールの理解の状況等が判断できず、割り当てが出来ない可能性があります。

ですので、今年度から以下のような体制を取らせていただく事と致します。

- ① 新規ライセンス取得者は、初心者練習会 1 回、U-12 部会主催の審判練習会に 3 回以上参加し、2PO の理解とルール理解、ゲームの進行の仕方を学ぶことで、帯同審判として認める。
公式戦経験のある E 級は、U-12 部会主催の審判練習会に 3 回以上参加することで、帯同審判として認める。



↑ 新規ではない E 級はここから行う。

- ② 年 4 回行われる公式戦（会長杯・北村杯・スポ少・新人戦）のいずれかにエントリーがある事。
←新規取得者の練習会終了者と以前から E 級を取得している審判員
※上位カテゴリーの経験がある E 級はその限りではない
- ③ 2021 年度は②までの条件をクリアしていなくても帯同審判として認める（移行措置）
2022 年度からは完全実施となる。

3. U-12 カテゴリーにおけるルール追加、変更及び廃止について 追加となる主なルール

- ① 第 5 条 プレーヤー：怪我と介助
→怪我の処置や、ベンチメンバーのエリアを超えての介助
- ② 第 9 条 ゲーム、クォーター、OT の開始と終了
→ユニフォームによるベンチの位置やゴールの位置

変更となる主なルール

- ① 第 26 条 3 秒ルール
→一般のルールに従う形に変更
- ② 第 41 条チームファウル：罰則
→オフェンスファウルはフリースローを行わない
- ③ 第 33 条 コンタクト（体の触れ合い）：基本概念
→オフェンスのシリンダーの権利
ノーマルバスケットボール・プレーをしているオフェンスのシリンダーに入って、イリーガルなコンタクトを起こすことはできない。
※ライン際のダブルチーム等について（補足）

廃止されるルール

① 第 10 条 スコアラー、アシスタントスコアラー

・スコアラーは次のことを合図して審判に知らせる。1 チームの各クォーター4 個目のプレーヤー・ファウルが宣されたとき

② 第 25 条 ボールの扱い

・ボールをわざと相手チームのプレーヤーに当ててプレーした場合はコーチ及びプレーヤーに対して注意を与え、適切に処置する。

③ 第 29 条 ボールをアウトにすること

・わざと相手にボールを投げつけたりしてアウトにしたときは、審判は相手チームにボールを与える。

④ 第 40 条 スローインの方法・スローインのときの注意

・スローインの規定が守られなかったときには相手チームにスローインのボールが与えられる。しかし、審判は注意を与えてスローインのやり直しをさせることもできる

4. 身に着けるもの

ユニフォームの中に着るもの →T シャツ、柄のインナー×

靴下 →くるぶしソックス× シューズから見えるもので、同チーム内は単色で主となる色が統一でなければならない。

アクセサリー →飾りのついたゴム、ネックレス、手首にゴムをつける、金属製のピン、ラバーやゴムのヘッドバンド

コンプレッション →腕や脚のコンプレッション、ヘッドバンド（繊維素材）、テーピング（ユニフォームから見える部分、足首等の装具は、同チーム内で、単色で主となる色が統一でなければならない。

アンダーガーマメント規定は冬期期間の限定となりますので、対象となる大会の際には審判から代表者会議の際にお知らせします。

会長杯は対象となりません。

ここへ記載されたルール改正等はほんの一部です。確実に各チーム、JBA U-12 ルールの変更に関する資料を確認してください。

一般のルール変更及び競技規則（ルールブック電子版）は公益財団法人日本バスケットボール協会（JBA）HP から確認、印刷することができます。

また、バスケットボール競技規則 2021・オフィシャルズマニュアル 2021 が発行されています。同じく JBA の HP から購入できますので合わせてご準備ください。

ミニバスケットボールのルールの変更及び競技規則に関しましても 2021 年度で変更となっております。

最新版のルールをご確認の上、レフリー活動を宜しくお願い致します。



2021 ミニバスケットボール競技規則の取り扱いについて

2021 バスケットボール競技規則施行に伴う、ミニバスケットボール競技規則の取り扱いは以下のとおりとする。

なお、各項の詳細については 2021 バスケットボール競技規則(ルールブック)を参照のこと。

1. 新たに導入される規定（これまで規定のなかったもの）

第 5 条 プレーヤー：怪我と介助

- 5-8 ヘッドコーチによってゲームの最初に出場すると指定されたプレーヤー、あるいはフリースローの間に手当てを受けるプレーヤーが怪我をした場合は、交代をすることができる。この場合、相手チームも希望をすれば、同じ人数だけプレーヤーを交代することができる。

第 7 条 ヘッドコーチとアシスタントコーチ：任務と権限

- 7-1 ゲーム開始予定時刻の最低 30 分前には、各ヘッドコーチまたはその代理者は、ゲームに出場することのできるチームメンバーの氏名と番号、ヘッドコーチやアシスタントコーチの氏名のリストをスコアラーに提出しなければならない。もしゲーム開始後に到着しても、スコアシートに記載されている全てのチームメンバーはゲームに出場することができる。このリストにおいて、キャプテンの規定については適用しない。
【補足】ゲームに出場することのできるチームメンバーリストの提出時間は、大会主催者の考えにより変更することができる。
- 7-4 ゲーム中、ヘッドコーチあるいはファーストアシスタントコーチは、ボールがデッドになりゲームクロックが止められているときのみ、スコアラーズテーブルに行きスタッツの情報を得ることができる。
【補足】スタッツの情報とは、得点、競技時間、スコアボードの表示、残っているタイムアウトの数、ファウルの数等を指す。
- 7-5 ゲーム中、ヘッドコーチは、ボールがデッドになりゲームクロックが止められているときのみ、審判に礼儀正しくコミュニケーションをとることができる。

第 8 条 競技時間、同点、オーバータイム

- 8-2 ゲーム開始 20 分前よりプレーのインターバルを設ける。
【補足】国内大会においては、インターバルの時間は大会主催者の考えにより変更することができる。

第 9 条 ゲーム、クォーター、OT の開始と終了

- 9-3 両チームとも 5 人ずつのプレーヤーを揃えてなければ、ゲームを始めることができない。
- 9-4 全てのゲームにおいて、プログラム上で最初に記載されているチーム（ホームチーム）のチームベンチと自チームのバスケットは、コートに向かってスコアラーズテーブルの左側とする。
しかし、両チームが合意する場合、チームベンチとバスケットを交換することができる。

第 16 条 得点：ゴールによる得点

- 16-2-3 故意に自チームのバスケットにボールを入れることはバイオレーションであり、得点は認められない

第 38 条 ディスクォリファイングファウル

38-1 定義

- 38-1-1 ディスクォリファイングファウルとは、プレーヤー、交代要員、ヘッドコーチ、アシスタントコーチ、5 個のファウルを宣せられたチームメンバー、チーム関係者によって行われる、特に悪質でスポーツマンシップに反する行為に対するファウルのことをいう。

- 38-1-2 ヘッドコーチにディスクォリファイングファウルが記録された場合は、スコアシートに記入されているファーストアシスタントコーチがヘッドコーチの役目を引き継ぐ。キャプテンの規定は適用しない。
- 38-2 暴力行為
- 38-2-1 ゲーム中に、スポーツマンシップとフェアプレーの精神に反する暴力行為が起きたときは、審判または必要に応じて警備担当者により、暴力行為を速やかにやめさせなければならない。
- 38-2-2 コート上もしくはその付近で、プレーヤーによる暴力行為が発生した場合は、審判は速やかにそれを止めさせる。
- 38-2-3 審判やテーブルオフィシャルズあるいは相手チームに対し、暴行を加えたプレーヤー、交代要員、コーチ、アシスタントコーチ、5個のファウルを宣せられたチームメンバー、チーム関係者は、速やかに失格・退場させられる。クルーチーフは、その事象を大会主催者に報告しなければならない。
- 38-2-4 審判が許可をしたときのみ警備担当者はコートに入る。しかし、観客が明らかな暴力的な意図をもってコートに侵入する場合は、チームや審判、テーブルオフィシャルズを守るために、警備担当者は速やかにコートに入らなければならない。
- 38-2-5 コートやコートの周囲、出入口、通路、更衣室（ロッカールーム）などの全てのエリアは、大会主催者の管理下にある。
- 38-2-6 プレーヤー、チームベンチに座ることを許可された者による用具・器具を破損するおそれのある行為は、絶対に許してはならない。
このような行為があったときには、審判はそのチームのヘッドコーチにそのような行為をやめさせるように警告をする。その行為が繰り返された場合には、速やかにテクニカルファウルまたはさらにディスクォリファイングファウルを宣さなければならない。
- 38-3 罰則
- 38-3-1 ファウルをした当該者に1個のディスクォリファイングファウルが記録される。
- 38-3-2 規則により失格・退場処分を受けた当該者は、ゲームが終わるまで自チームの更衣室（ロッカールーム）にいか、コートのある建物から立ち去るかしなければならない。
- 38-3-3 フリースローが以下のとおり与えられる：
- ・体の触れ合いをともなわないディスクォリファイングファウルが宣せられた場合のフリースローシューターは、ヘッドコーチが指定する。
 - 【補足】この場合のフリースローシューターはチームメンバーの中から選ばれる。
 - ・体の触れ合いをともなうディスクォリファイングファウルが宣せられた場合は、ファウルをされたプレーヤーがフリースローシューターになる。
- フリースローの後：
- ・そのチームのスコアラズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上からのスローインで再開する。
 - ・第1クォーターを始める場合は、センターサークルでのジャンプボールになる。
- 38-3-4 与えられるフリースローの数は以下のとおりである：
- ・体の触れ合いをともなわないファウル：2本のフリースロー
 - ・ショットの動作（アクトオブシューティング）中ではないプレーヤーがファウルをされたとき：2本のフリースロー
 - ・ショットの動作（アクトオブシューティング）中のプレーヤーがファウルをされ、そのショットが成功したとき：得点が認められ、さらに1本のフリースロー
 - ・ショットの動作（アクトオブシューティング）中のプレーヤーがファウルをされ、そのショットが不成功だったとき：2本のフリースロー。3本のフリースローは適用しない。
 - ・ヘッドコーチが失格退場になるファウル：2本のフリースロー
 - ・ファーストアシスタントコーチ、交代要員、5個のファウルを宣せられたチームメンバー、チーム関係者が失格退場になるファウル。このファウルはヘッドコーチのテクニカルファウルとして記録される：2本のフリースロー
 - さらに、ファーストアシスタントコーチ、交代要員、5個のファウルを宣せられたチームメンバー、チーム関係者がチ

- ームベンチエリアを離れ、積極的にファイティングに参加した場合：
- ーファーストアシスタントコーチ、交代要員、5 個のファウルを宣せられたチームメンバーに対する 1 回のディスクォリファイングファウルごとに：2 本のフリースロー
- 全てのディスクォリファイングファウルはそれぞれの違反者に対して記録される。
- ーチーム関係者に対する 1 回のディスクォリファイングファウルごとに：2 本のフリースロー
- 全てのディスクォリファイングファウルはヘッドコーチに対して記録される。
- 相手チームと罰則が等しく相殺されない限り、全ての罰則に含まれるフリースローは行われる。

第 48 条 スコアラー、アシスタントスコアラー

48-3 スコアシートの記録に誤りが見つかった場合は、次のように処置をする：

- ・記録の誤りがゲーム中に見つかった場合、タイマーは、ブザーを鳴らして審判に知らせる前に、次にボールがデッドになるのを待たなければならない。
- 【補足】国内大会においては、次にボールがデッドになったときにスコアラーがブザーを鳴らす。
- ・記録の誤りがゲーム終了の合図が鳴った後クルーチーフがスコアシートにサインをする前に見つかった場合、その誤りを訂正することがゲームの結果に影響するとしても、訂正しなければならない。
- ・記録の誤りが、クルーチーフがスコアシートにサインをした後に見つかった場合、その誤りを訂正することはできない。クルーチーフあるいはコミッショナー（同席している場合）は、その事実の詳細な報告を大会主催者に提出しなければならない。

2. 変更された規定

第 2 条 プレーイングコート

2-4-1 境界線（バウンダリライン）

変更前：境界線の長さにはラインの幅を含む

変更後：コートは、境界線（エンドラインおよびサイドライン）で囲まれている。これらのラインはコートに含まない

第 26 条 3 秒ルール

26-1-1

変更前：3 秒ルールは、プレーヤーがボールを受け取ろうとして制限区域内に積極的に入っているときにはきびしく適用されなければならない。

反対に、プレーヤーがチームプレイに直接参加していないで、偶然に制限区域内に入っていたときには適用する必要はない。この規則はできるだけ寛大に適用されることが望ましい

変更後：ライブのボールをコントロールしているチームのプレーヤーは、ゲームクロックが動いている間は、相手チームのバスケットに近い制限区域内に 3 秒以上とどまることはできない。

第 27 条 近接してガードされたプレーヤー

27-1 定義

変更前：5 秒ルールの 5 秒は、ディフェンス側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーに通常の 1 歩よりも近接して積極的なディフェンスをし、ボールを持っているプレーヤーがボールもパスも、スローも、ころがすこともドリブルもできなくなったときからかぞえ始める

変更後：コート上でライブのボールを持っているプレーヤーが、相手チームのプレーヤーに 1 m 以内の距離で、正当な位置で積極的にガードされているとき、近接してガードされていることになる。

第 36 条 テクニカルファウル

36-1 言動や振る舞いに関する規定

36-1-4

変更前：審判はプレーヤーに対して、テクニカルファウルを安易に宣してはならない。ミニバスケットボール競技の性質上テクニカルファウルをとりあげる前に警告という手段を用いて再発を防止することが望ましい。

変更後：審判は、明らかに意図的ではなくゲームに直接的に影響のない軽微な違反については、テクニカルファウルを科さずに警告を与えることがある。ただし、警告の後もその同じ違反が繰り返し続く場合はその限りではない。

第 41 条 チームファウル：罰則

41-2-2

変更前：オフェンス側のプレーヤーもディフェンス側のプレーヤーもからだの触れ合いによって相手のプレーを妨げたときは等しく罰せられるという原則に従って、チームファウルの罰則はオフェンス側のファウルにもディフェンス側のファウルにも適用される。

変更後：ライブのボールをチームコントロールしている、あるいはボールを与えられることになっていたチームのプレーヤーがパーソナルファウルをしたときは、チームファウルの罰則は適用されず、相手チームのスローインになる。

第 42 条 特別な処置をする場合

42-2-3

変更前：ファウルがあってゲームクロックが止められている間に別のファウルが起こった場合は、ファウルが起こった順に罰則を適用し、最後のファウルの処置からゲームを再開する。罰則に含まれているスローインは、最後のファウルの罰則を除いて取り消される。

変更後：両チームに記録された全ての等しい罰則やダブルファウルの罰則は、起きた順に従って相殺される。一度スコアシートに記入され相殺したり取り消したりした罰則は適用されない。

第 44 条 訂正のできる誤り

44-3 手順

変更前：フリースローの与え方を間違えてゲームを進行させてしまったことに審判が気づいたときは、同じクォーターまたはオーバータイムの間および次のクォーターまたはオーバータイムが始まる前であれば訂正することができる。プレー中であれば、審判はどちらのチームも不利にならないようにゲームを中断し訂正の処置をする。そのあと、ゲームを中断した時のボールのコントロールが認められていたチームに改めてボールを与え、ボールがあったところに最も近いアウトからスローインでゲームを再開する。

誤りが発見されるまでの間に認められた得点、経過した競技時間、その他起こったすべてのことは有効であり、取り消されない。

変更後：44-3-1 与えてはいけないフリースローを与えていた場合

誤って行われたフリースローは取り消され、ゲームは次のように再開される：

・ゲームクロックが動き始める前に誤りに気がついた場合は、ボールはフリースローを取り消されたチームに与えられ、フリースローラインの延長線上からのスローインになる。

・ゲームクロックが動き始めてから誤りに気がついた場合：

－誤りに気がついたときにボールをコントロールしているかボールを与えられることになっているチームが、誤りが起きたときにボールをコントロールしていたチームと同じであった場合。あるいは、

－誤りに気がついたときに、どちらのチームもボールをコントロールしていなかった場合

ボールは、誤りが起きたときにボールを与えられることになっていたチームに与えられる。

・ゲームクロックが動き始めた後に誤りに気がついてゲームが止められたとき、誤ってフリースローが与えられたチーム

の相手チームがボールをコントロールしていたかスローインのボールが与えられることになっていた場合は、ジャンプボールシチュエーションになる。

・ゲームが止められたときにどちらかのチームに新たに別のファウルの罰則によるフリースローが与えられることになっていた場合は、そのフリースローを行ったあと、誤ったフリースローをしたチームにボールが与えられ、スローインでゲームを再開する。

44- 3 - 2 与えるべきフリースローを与えなかった場合

・誤りに気がついてゲームが止められるまでの間に、ボールのチームコントロールが一度も変わっていなかった場合は、訂正のフリースローを行い、ゲームは通常の最後のフリースローのあとと同じように再開される。

・誤ってスローインのボールを与えられたチームと同じチームが得点した場合は、その誤りはなかったものとする。

44- 3 - 3 違うプレーヤーにフリースローを与えていた場合

行われたフリースローとともに、もし罰則の一部としてボールのポゼッションがあればそのポゼッションも取り消される。その他の罰則が行われる場合、もしくはゲームが再開されてこの誤りの訂正のために止められた場合を除いて、フリースローラインの延長線上から相手チームにスローインが与えられる。ゲームが再開されてこの誤りの訂正のために止められた場合は、誤りを訂正するためにゲームが止められた場所から再開する。

3. 廃止された規定 ※条項は「2007～ミニバスケットボール競技規則」による

第 10 条 スコアラ、アシスタントスコアラ

・スコアラは次のことを合図して審判に知らせる。1 チームの各クォーター 4 個目のプレーヤー・ファウルが宣せられたとき

第 25 条 ボールの扱い

・ボールをわざと相手チームのプレーヤーに当ててプレーした場合はコーチ及びプレーヤーに対して注意を与え、適切に処置する

第 29 条 ボールをアウトにすること

・わざと相手にボールを投げつけたりしてアウトにしたときは、審判は相手チームにボールを与える

第 40 条 スローインの方法・スローインのときの注意

・スローインの規定が守られなかったときには相手チームにスローインのボールが与えられる。しかし、審判は注意を与えてスローインのやり直しをさせることもできる

・スローインの規定が守られなかったときに審判は注意を与えてやり直しをさせることもできるという規定は、プレーヤーの技術と規則に対する知識レベルを考慮してのものである。この配慮が必要なゲームであるかどうか、ゲームをはじめる前に両チームの共通理解を得ておけば公平にゲームを進行させることができる。